

家庭教育コラム

小中学生の保護者の皆様へ ご家庭で子どもと向き合うヒントをお届けします。

No.7

平成31年4月発行
大田区教育委員会教育総務課
03-5744-1447

家庭学習の習慣を身に付けさせるには

1 勉強しない理由はさびしいから（しつけ期 6歳～10歳頃）

最近の子どもは勉強のスイッチがなかなか入らないようです。子どもに勉強の習慣を付けさせるポイントは、最初の10分は家族といっしょに勉強することです。

子どもが勉強モードに入れない理由のひとつは、さびしいからです。家族と話をする。食事をする。テレビを見る。それに対して、勉強は孤独な行為です。このため、気持ちを勉強モードに切り替えるのがとても難しいのです。ですから、**さびしさを感じないで勉強をはじめられるようにすることがポイント**になってきます。家庭学習が習慣づいている子どもの中には、リビングで勉強をしている子がたくさんいます。「早く自分の部屋に行って勉強しなさい」と言う方がいますが、ちょっと考えてみてください。誘惑に弱い子どもたちが、自分の部屋に行ってすぐに勉強している場面を想像できるでしょうか。強い意志をもった子でない限り、なかなかできるものではありません。

勉強するタイミングとしては、脳が勉強するのにもっとも適した状態になる夕食前が理想です。ご飯を食べた後だと、脳がリラックスしすぎてしまいます。夕食が7時からだとすれば、6時半から勉強をはじめます。最初の10分は、みなさんもお子さんといっしょに勉強してあげてください。10分たったなら、みなさんは夕食の準備に戻るので。



2 勉強しなさいがやる気を低下させる（見守り期 10歳～18歳頃）

中学・高校受験が迫るこの時期は、お子さんに勉強の習慣をもっとも身に付けさせたい時期でもあります。少しでも勉強に取り組んでほしい、成績を上げてほしいというのが、みなさんの本音でしょう。しかしながら、現実はなかなか厳しく、多くの子は学校から帰ってきたらほとんど勉強をしません。「勉強しなさい」と言い続けた結果、はたしてお子さんは勉強をするようになるでしょうか。そこが重要なところ。みなさんに「勉強しなさい」と言われると、子どもは「僕（私）は信じられていないんだ」「どうせ勉強しないと思われているんだ」と感じます。そして、やる気を失っていきます。「勉強しなさい」ということが、じつは子どもの意欲を奪ってしまっているのです。では、勉強する意欲を引き出すにはどうしたらいいのでしょうか。それは、その逆をやればいいのです。子どもを信用していない言葉がけではなく、子どもに対する期待と信頼を前提とした言葉がけをします。「勇気付け」ですね。「勉強してくれたら、私はうれしい。〇〇くんだったらできるよね」といったみなさんの思いを、上から目線で押し付けるのではなく、一人の対等な人間として伝えていくことが大事です。

